

研修カリキュラム表（臨時的代替方法・介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名： パルシステム生活協同組合連合会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)		実施計画				臨時的代替方法による実施内容			
講義・演習(実習)		カリキュラム名・時間数		実施内容					
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	1 職務の理解	1 職務の理解	6 時間		
			通学 通信 合計				通学 通信 合計		
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3 0 3	(1) 講義のみ	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3 0 3	(2) 講義・演習:視聴覚教材を用い、働く現場についてグループ毎に話し合って発表をします。	(2) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	(2) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	2 介護における尊厳の保持・自立支援	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間		
			通学 通信 合計				通学 通信 合計		
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	0 4 4	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 4 4		
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	1.5 3.5 5	(2) 通信講習/講義・演習:介護予防・残存機能の活用をテーマとした事例について、グループで話し合います。	(2) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	(2) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 5 5		
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	3 介護の基本	3 介護の基本	6 時間		
			通学 通信 合計				通学 通信 合計		
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	1.5 0 1.5	(1) 講義のみ	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	(1) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	0 1.5 1.5	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	1.5 0 1.5	(3) 講義・演習:事故予防や感染予防等の事例に基づき、介護に関するリスクについてグループで話し合い発表をします。	(3) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	(3) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
(4) 介護職の安全		(4) 同左	0 1.5 1.5	(4) 通信講習のみ	(4) 通信講習のみ	(4) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)	
講義・演習(実習)	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解	6 時間
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解	6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

実施計画				臨時的代替方法による実施内容		
カリキュラム名・時間数		実施内容				
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間		
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 同左	1.5 1.5 3	(1) 通信講習/講義・演習:介護保険制度の理解を深めるため、申請から支給決定迄のフローチャート作成の実技演習をします。	(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
(2) 同左	0 3 3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 3 3		
(3) 同左	0 3 3	(3) 通信講習のみ	(3) 通信講習のみ	0 3 3		
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間	5 介護におけるコミュニケーション技術	5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間		
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 同左	3 0 3	(1) 講義・演習:言語・非言語コミュニケーション技術を学ぶため、障害者や認知症に応じた対応方法をグループで話し合います。	(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
(2) 同左	0 3 3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 3 3		
6 老化の理解	6 時間	6 老化の理解	6 老化の理解	6 時間		
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 同左	3 0 3	(1) 講義・演習:例題を設定し、その例題に基づいてグループでの話し合い発表をします。	(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 3 3		
(2) 同左	0 3 3	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 3 3		
7 認知症の理解	6 時間	7 認知症の理解	7 認知症の理解	6 時間		
	通学 通信 合計			通学 通信 合計		
(1) 同左	0 1.5 1.5	(1) 通信講習のみ	(1) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		
(2) 同左	0 1.5 1.5	(2) 通信講習のみ	(2) 通信講習のみ	0 1.5 1.5		
(3) 同左	1.5 0 1.5	(3) 講義のみ	(3) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		
(4) 同左	1.5 0 1.5	(4) 講義・演習:認知症の家族事例を聞き、どのような支援ができるか、グループで話し合い発表をします。	(4) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 1.5 1.5		

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)	
講義・演習(実習)	
8 障害の理解	3 時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	75 時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	

実施計画				
カリキュラム名・時間数			実施内容	
8 障害の理解	3 時間		8 障害の理解	
	通学	通信	合計	
(1) 同左	0	0.75	0.75	(1) 通信講習のみ
(2) 同左	0	0.75	0.75	(2) 通信講習のみ
(3) 同左	1.5	0	1.5	(3) 講義・演習:障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合っ発表します。
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	75 時間		9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	12 時間		ア 基本知識の学習	
	通学	通信	合計	
(1) 同左	6	0	6	(1) 講義・演習:介護サービスと医療サービスの違いについて、グループで話し合い発表します。
(2) 同左	0	3	3	(2) 通信講習のみ
(3) 同左	0	3	3	(3) 通信講習のみ
イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間		イ 生活支援技術の講義・演習	
	通学	通信	合計	
(4) 同左	6	0	6	(4) 講義・演習:事例を示し、共に行う清掃、洗濯、調理等を演習します。
(5) 同左	0	3	3	(5) 通信講習のみ
(6) 同左	6.5	0	6.5	(6) 講義・演習:更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習します。
(7) 同左	6.5	0	6.5	(7) 講義・演習:移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習します。
(8) 同左	6.5	0	6.5	(8) 講義・演習:食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習します。
(9) 同左	6.5	0	6.5	(9) 講義・演習:入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定した介助方法を考え実技演習します。
(10) 同左	6.5	0	6.5	(10) 講義・演習:排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習します。
(11) 同左	6.5	0	6.5	(11) 講義・演習:利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習します。
(12) 同左	0	3	3	(12) 通信講習のみ

臨時的代替方法による実施内容			
8 障害の理解	3 時間		
	通学	通信	合計
(1) 通信講習のみ	0	0.75	0.75
(2) 通信講習のみ	0	0.75	0.75
(3) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	1.5	1.5
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	75 時間		
ア 基本知識の学習	12 時間		
	通学	通信	合計
(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	6	6
(2) 通信講習のみ	0	3	3
(3) 通信講習のみ	0	3	3
イ 生活支援技術の講義・演習	51 時間		
	通学	通信	合計
(4) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0	6	6
(5) 通信講習のみ	0	3	3
(6) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	2.75	6.5
(7) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	2.75	6.5
(8) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	2.75	6.5
(9) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	2.75	6.5
(10) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	2.75	6.5
(11) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75	2.75	6.5
(12) 通信講習のみ	0	3	3

研修カリキュラム(実施要綱別紙1)		実施計画				臨時的代替方法による実施内容		
講義・演習(実習)		カリキュラム名・時間数		実施内容				
(実習) [*] (50～55時間中12時間以内)		(実習) [*] 0 時間		(実習) [*]		(実習) [*]		
介護実習 ○時間			0					0
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間			0					0
在宅サービス提供現場見学 ○時間			0					0
ウ 生活支援技術演習 10～12時間		ウ 生活支援技術演習 12 時間		ウ 生活支援技術演習		ウ 生活支援技術演習		12 時間
			通学 通信 合計				通学 通信 合計	
(13) 介護過程の基礎的理解		(13) 同左	6 0 6	(13) 講義・実技演習：片麻痺または認知症等の事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表します。		(13) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 2.25 6	
(14) 総合生活支援技術演習		(14) 同左	6 0 6	(14) 講義・実技演習：片麻痺および認知症の2事例を使って、一連の自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習します。		(14) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題の学習)で、実技演習は同左とします。	3.75 2.25 6	
10 振り返り 4 時間		10 振り返り 4 時間		10 振り返り		10 振り返り		4 時間
			通学 通信 合計				通学 通信 合計	
(1) 振り返り		(1) 同左	2 0 2	(1) 講義・演習：研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことを確認し、各自発表します。		(1) 講義及び演習部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 2 2	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	2 0 2	(2) 講義のみ		(2) 講義部分を通信形式(テキストの熟読及び担当講師が作成したレポート課題による学習)で実施します。	0 2 2	
追加カリキュラム 時間								
計 (130 時間)		計 (130 時間)					(130 時間)	

※「9こころとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。